Course number	U-LAS60 10004 OJ17		
Course title (and course title in English)	統合型複合科目（統合群i） ：大学で学ぶ　YU02 Integrated Liberal Arts and Science with Small Group Seminars (Interdisciplinary Sciences i) :Introduction to University Study YU02	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Institute for Liberal Arts and Sciences Program-Specific Professor,KUSUMI TAKASHI Institute for Advanced Study Associate Professor,FUJITA DAISHI Institute for Advanced Study Program-Specific Research Center Associate Professor,INOSE TOMOKO

Group	Interdisciplinary Sciences	Field(Classification)	Interdisciplinary Sciences

Language of instruction	Japanese	Old group		Number of credits	4

Number of weekly time blocks	2	Class style	Lecture + Seminar (Face-to-face course)	Year/semesters	2026・First semester

Days and periods	Mon.5・Wed.5	Target year	All students	Eligible students	For all majors

[Overview and purpose of the course]

教科書に書かれていることは常に正しいのか。論文で主張されている理論に弱点はないのか。専門家の見解は本当に妥当なのか。大学での学びでは，こうした問いが出発点となる。学術の世界では定説が覆され，複数の理論が対立し，新たな発見が従来の理解を書き換える。与えられた知識を獲得するだけでなく，自ら問題を発見し，既存の主張を吟味し，根拠を検証する。これが批判的思考であり，大学での学びに不可欠な姿勢である。

本統合型複合科目では，講義において，大学での学びの特徴や重要なスキル，それを支える批判的思考について学ぶ.そして，受講者は4つの少人数演習のいずれかに参加することによって，講義に関連するテーマを，討論や実習などを通してより深める。さらに，4つの少人数演習の担当者が講義においても，各1回の話題提供を行うことによって，全ての受講生が4つの演習のエッセンスを理解できるようする。

具体的には，講義では，第一に，大学での学びの特徴（1回）を理解し，そのために必要なスキルとしてリテラシー（2回）と，批判的思考を身につけることの重要性（4回）や知識習得と論理的な考え方(7回)を説明し，基本的なスキルを身につける。第二に，質問や発表の仕方(3回)，思考モードのシフト(5回)，インターネットや生成AIを活用した文献検索の仕方(6回)，学術書や論文の読み方(8回)，レポートの書き方(10回)について，身につける。第三に，辞典を批判的に活用すること，科学報道を理解することについて学び（9回），文理を融合した思考法を身につける。

そして，上記の講義に関連したテーマについて，4つの少人数演習に分かれて，毎週並行して少人数演習に参加して，講義の内容をさらに深める。

11回，12回には，4つの異なる少人数演習の学生からなるグループに分かれて，合同演習を行う。講義に関連するテーマを自分たちで設定して，講義と演習で学んだことを踏まえて，議論を発展させる。13回，14回にはその成果を発表し，全体討論を実施して，まとめを行う。

○統合型複合科目分類　【文・理】

主たる課題について文系分野の要素が強く、副たる課題については理系分野の要素が強いと考えられるもの

Continue to 統合型複合科目（統合群i）：大学で学ぶ YU02(2)↓↓↓

[Course objectives]

大学で学ぶための土台として，大学の学びの特徴と学問と研究活動の全体像を理解し，大学での学びにおいて重要な批判的な思考を身につけ，読解，質問，文献検索，研究，ライティング，発表など基本的スキルを着実に身につけることを目指す。

[Course schedule and contents)]

（この授業では、講義と少人数演習を併せて学びます。講義のみ、少人数演習のみの出席では授業の到達目標に達しません。なお、このシラバスでは共通の講義部分と、少人数演習・B班「1回生からの研究デザイン道場」（担当：藤田、猪瀬他）の授業計画と内容を記します）

◆講義　　月曜５限・（共北32）
第1回　イントロダクション：高校までの学びとの違いとは（楠見）
第2回　大学で学ぶとは：アカデミックリテラシーを身につけるには（楠見）
第3回　質問と発表のやり方について（佐々木）
第4回　批判的思考とは（楠見）
第5回　思考モードをシフトする：受動的課題解決から自発的課題発見へ (藤田)
第6回　文献検索にインターネット・生成AIを活用するには：デジタル・メディアリテラシー（楠見）
第7回　知識の修得とその活用―考えるとはどういうこと？(奥村)
第8回　批判的に学術論文を読むには（楠見）
第9回　辞書は信頼できるか，科学報道は信用できるか (宇佐美・沼田)
第10回　批判的にレポートを書く・発表するには（楠見）
第11回　合同演習１（4つの演習の学生からなるグループが最終発表に向けて活動）（楠見）
第12回　　合同演習2（4つの演習の学生からなるグループが最終発表に向けて活動）（楠見）
第13回　4つの少人数演習の学生からなるグループが最終発表と討論1（楠見他）
第14回　4つの少人数演習の学生からなるグループが最終発表と討論2，まとめ（楠見他）
第15回　フィードバック（楠見）

Key Word: 批判的思考，アカデミックリテラシー，リサーチリテラシー

◆少人数演習
B班「1回生からの研究デザイン道場」（担当：藤田、猪瀬他）　水曜５限・総合研究１号館１１９号室
　高等教育で得られる学びの中でも，「研究テーマをいかに設定するか」は研究者の資質に直結する重要な要素である。通常，このスキルは大学院博士課程レベルで培われるが，本セミナーでは初年度の学生でも，研究テーマの設定を学び，実践する機会を得られるように設計した。これまでは「与えられた課題」の解決方法を学んできた学生に，自らの課題を見つけ，研究の方向性を定める初歩的な経験を積む場を提供する。
　「研究プロジェクト」のデザイン法は，高校まではもちろん，大学教育においても，講義を通じて体系的に教わる機会はない。これらは一般に，研究室に所属した後に，実経験を通じ，体得していく形になる。先端研究に取り組むためには，多くの知識，そして研究手法の理解が不可欠である。したがって，先にこれら知識をインプットすべきという姿勢は，カリキュラムとして一定の合理性がある。しかし，実際に研究プロジェクトのデザインに取り組み，研究手法の持ち札の少なさを体感した後でなければ，講義で教わる「先人達の知恵」「経験の蓄積」のありがたさも実感しづらい。これは，現カリキュラムが抱えるジレンマである。
　そこで本セミナーでは，身近でわかりやすい課題設定（例えば，「夏休みの自由研究レベル」か

Continue to 統合型複合科目（統合群i） ：大学で学ぶ YU02(3)↓↓↓

らスタートする）を，研究の現場で求められるレベルで議論，深掘りし，これら作業を通じ，受講生に「研究の世界」を疑似的に体験してもらう事を目的とする。学部の早い段階で，こうした「研究者の姿勢」を体験する事は，その後の教養，専門教育へのモチベーション向上にも繋がる。
　本セミナーは，大きく４つのフェーズで構成され，それぞれのフェーズは「査読(*)」「実験計画立案」「課題設定」「研究デザイン」に対応する。各フェーズで与えられるテーマをこなすことにより，研究者の考え方を追体験。最終的には新しい研究プロジェクトを設計，提案できるようにする。各回ごとのテーマは，受講者それぞれに考えを練ってもらった後に，数人の受講者グループ内で議論。適宜，抽象化や統合を行った後に発表を行い，その思考プロセスや経験を参加者全体で共有する形式を取る。
　第1-3回　「査読」フェーズ
　第4-6回　「実験計画立案」フェーズ
　第7-8回　「課題設定」フェーズ
　第9-13回　「研究デザイン」フェーズ
　第14回　最終発表会
　第15回　フィードバック＆研究室見学

[Course requirements]

特になし。特別な予備知識は必要とせず，文系・理系を問わず全学部生向けに授業を行う。ただし担当教員はいずれも自然科学分野の教員であるため、関連分野の研究計画立案の方が専門性を発揮できる。

[Evaluation methods and policy]

講義については，14回の授業での平常点（出席と参加，課題提出の状況など）50%とグループ活動と最終発表で50%で評価を行う。講義と少人数演習をあわせた授業全体の成績は，1：1の割合で，両担当教員が相談して評価する。少人数演習における各評価項目の割合の詳細は，初回の授業で説明する。フィードバック授業は評価の対象外である。

[Textbooks]

Not used

[References, etc.]

（References, etc.）
Lesley-JaneEales-Reynolds他 楠見孝, 田中優子訳 『大学生のためのクリティカルシンキング:学びの基礎から教える実践へ』（北大路書房）ISBN:978-4762830884
他は授業中に紹介する

[Study outside of class (preparation and review)]

教科書，授業資料の要点を予習・復習する。

[Other information (office hours, etc.)]

授業で学んだことを，大学での学び全体に活かして実践して，振り返ることを期待する。
　授業全体のオリエンテーションのための動画を公開するので，視聴しておくこと。詳細はKULASIS「全学共通科目」のお知らせを確認すること。

[Essential courses]